

鍼灸手技療法学科
シラバス 1年生

2026年度

目次

授業科目及び単位数	1
カリキュラムツリー	2
科目の位置付け ナンバリングについて	3
2026年度科目一覧	4

基礎分野

心理学	6
論理学	7
社会学	8
中国語	9
英語	10
コミュニケーション理論と実践	11
プライマリーセミナー	12

専門基礎分野

解剖学Ⅰ	14
解剖学Ⅱ	16
生理学Ⅰ	18
生理学Ⅱ	20
衛生学・公衆衛生学	22
リハビリテーション医学	24
医療概論	26
整復概論	27

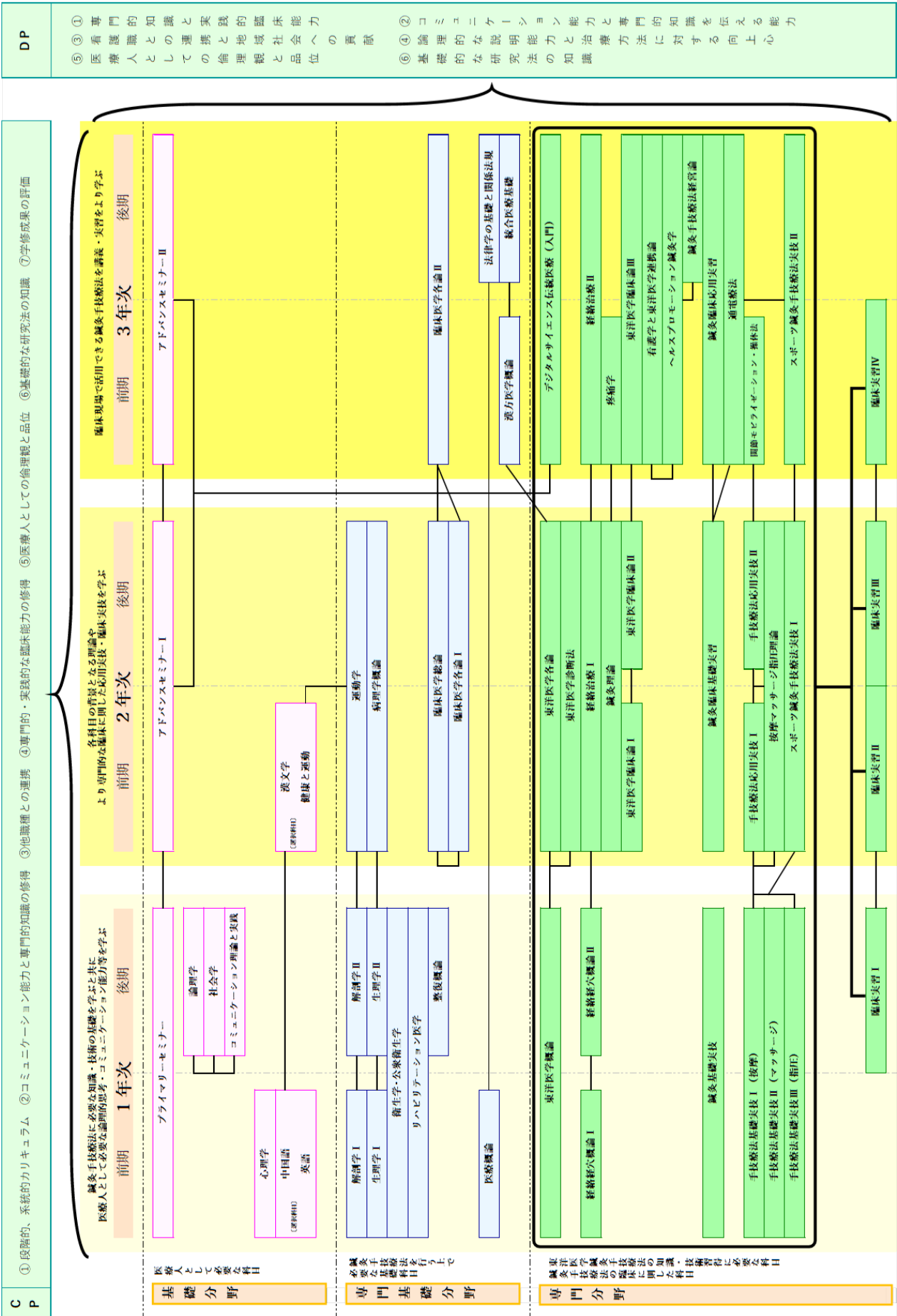
専門分野

東洋医学概論	28
経絡経穴概論Ⅰ	30
経絡経穴概論Ⅱ	32
手技療法基礎実技Ⅰ(按摩)	33
手技療法基礎実技Ⅱ(マッサージ)	35
手技療法基礎実技Ⅲ(指圧)	37
鍼灸基礎実技	39
臨床実習Ⅰ	41
基幹教員・オフィスアワー	43
非常勤講師一覧(1年次担当)	44

授業科目及び単位数

		第1年次				第2年次				第3年次			
授業科目		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活	心理学	2	論理学	2	漢文学	2						
		中国語	2	社会学	2	健康と運動	2						
		英語	2	コミュニケーション理論と実践	1								
		プライマリーセミナー			2	アドバンスセミナーⅠ			2	アドバンスセミナーⅡ			2
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	3	解剖学Ⅱ	3	運動学		2	臨床医学各論Ⅱ				2
		生理学Ⅰ	2	生理学Ⅱ	2	病理学概論		2					
	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進	衛生学・公衆衛生学			2	臨床医学総論		2					
		リハビリテーション医学			2	臨床医学各論Ⅰ		2					
	保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念	医療概論	1	整復概論	1					漢方医学概論	1	法律学の基礎と関係法規	1
											統合医療基礎	1	
専門分野	基礎あん摩マッサージ指圧学・基礎はり学・基礎きゅう学	東洋医学概論			2	按摩マッサージ指圧理論		2					
		経絡経穴概論Ⅰ	2	経絡経穴概論Ⅱ	1	鍼灸理論		2					
	臨床あん摩マッサージ指圧学・臨床はり学・臨床きゅう学					東洋医学各論		2	東洋医学臨床論Ⅲ				2
						東洋医学診断法		2	経絡治療Ⅱ				2
						東洋医学臨床論Ⅰ		2	疼痛学	1			
						東洋医学臨床論Ⅱ		2					
						経絡治療Ⅰ		2					
	社会あん摩マッサージ指圧学・社会はり学・社会きゅう学								看護学と東洋医学連携論			2	
	実習	手技療法基礎実技Ⅰ（按摩）			2	スポーツ鍼灸手技療法実技Ⅰ		4	スポーツ鍼灸手技療法実技Ⅱ				4
		手技療法基礎実技Ⅱ（マッサージ）			2	鍼灸臨床基礎実習		2	鍼灸臨床応用実習				2
		手技療法基礎実技Ⅲ（指圧）			2								
		鍼灸基礎実技			2								
	臨床実習			臨床実習Ⅰ	1	臨床実習Ⅱ	1	臨床実習Ⅲ	1	臨床実習Ⅳ	1		
統合領域					手技療法応用実技Ⅰ	1	手技療法応用実技Ⅱ	1	ヘルスプロモーション鍼灸学				2
								デジタルサイエンス伝統医療（入門）				2	
								通電療法				2	
											鍼灸手技療法経営論	1	

カリキュラムツリー



科目の位置付け ナンバリングについて

教育の質に係る客観的指標として、文部科学省より

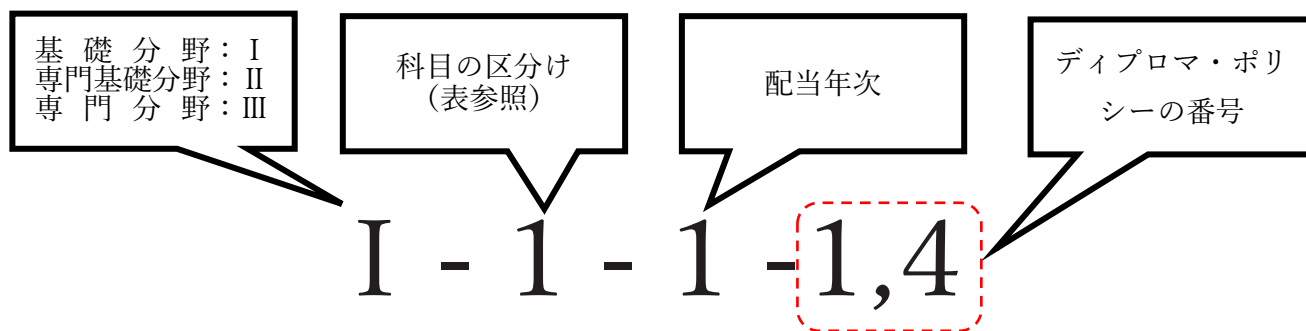
○卒業認定・学位授与の方針と、それぞれの授業科目の関連

○授業科目の教育課程内の位置付けや水準を表す数字や記号（ナンバリング含む）

をシラバスに記載することが求められています。

各科目のナンバリングの見方については下記を参照してください。

(例) 1年生「心理学」：I-1-1-1,4



【ディプロマ・ポリシー】（卒業認定・学位授与の方針）

※複数当てはまる場合、すべて記述

DP 1. 専門的知識と実践的臨床能力

あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師として必要とされる専門的知識および医療人の基礎となる幅広い知識を養い、鍼灸手技療法の治療に必要な実践的な臨床能力を備えている。

DP 2. コミュニケーション能力と専門的知識を伝える能力

スポーツ選手のコンディショニング、中・高齢者の健康維持増進、要介護の高齢者の病状の進行抑制など様々な場面で、連携する職種の人たちとコミュニケーションを図り、チームの一員としての役割を意識しながら、鍼灸手技療法の専門的知識を伝える能力を身につけている。

DP 3. 看護職との連携と地域社会への貢献

あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師として、看護職と連携してヘルスプロモーション、介護などの地域社会の課題に貢献できる能力を備えている。

DP 4. 論理的な説明能力と治療方法に対する向上心

基本的な病状を把握し、患者に鍼灸手技療法の適応・効果を論理的に説明できると共に、日々進歩・変化する医学的知識や鍼灸手技療法技術に対応するための向上心を身につけている。

DP 5. 医療人としての倫理観と品位

医療人として高い倫理観と品位を保持し、医療上知り得た情報を患者の同意なしに開示しない心構えを身につけている。

DP 6. 基礎的な研究法の知識

知的探究心を深めるために必要となる、情報の収集・分析方法などの基礎的な研究方法の知識を備えている。

2026年度科目一覧

分野	授業科目	配当年次	位置付け記号	
基礎分野 I	科学的思考の基盤・人間と生活 1	心理学	1	I-1-1-1,2
		論理学	1	I-1-1-4,6
		社会学	1	I-1-1-2,3,4,5
		中国語	1	I-1-1-2
		英語	1	I-1-1-2
		漢文学	2	I-1-2-2
		健康と運動	2	I-1-2-1,3,4
		コミュニケーション理論と実践	1	I-1-1-2,5
		プライマリーセミナー	1	I-1-1-5,6
		アドバンスセミナー I	2	I-1-2-5,6
専門基礎分野 II	人体の構造と機能 2	解剖学 I	1	II-2-1-1,4
		解剖学 II	1	II-2-1-1,4
		生理学 I	1	II-2-1-1
		生理学 II	1	II-2-1-1
		運動学	2	II-2-2-1
	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進 3	衛生学・公衆衛生学	1	II-3-1-1,3
		病理学概論	2	II-3-2-1,4
		リハビリテーション医学	1	II-3-1-1
		臨床医学総論	2	II-3-2-1,4
	保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念 4	臨床医学各論 I	2	II-3-2-1,4
医療概論		1	II-4-1-1,5	
専門分野 III	基礎あん摩マッサージ指圧学・基礎はり学・基礎きゅう学 5	整復概論	1	II-4-1-1
		東洋医学概論	1	III-5-1-1,4
		経絡経穴概論 I	1	III-5-1-1,4
		経絡経穴概論 II	1	III-5-1-1,4
	臨床あん摩マッサージ指圧学・臨床はり学・臨床きゅう学 6	按摩マッサージ指圧理論	2	III-5-2-1,4
		鍼灸理論	2	III-5-2-1,4
		東洋医学各論	2	III-6-2-1,4
		東洋医学診断法	2	III-6-2-1,4
		東洋医学臨床論 I	2	III-6-2-1,4
	実習 8	東洋医学臨床論 II	2	III-6-2-1,4
経絡治療 I		2	III-6-2-1,4	
手技療法基礎実技 I (按摩)		1	III-8-1-1,4	
手技療法基礎実技 II (マッサージ)		1	III-8-1-1,4	
手技療法基礎実技 III (指圧)		1	III-8-1-1,4	
鍼灸基礎実技		1	III-8-1-1,4	
臨床実習 9	スポーツ鍼灸手技療法実技 I	2	III-8-2-1,4	
	鍼灸臨床基礎実習	2	III-8-2-1,4	
	臨床実習 I	1	III-9-1-1,2,4,5,6	
統合領域 10	臨床実習 II	2	III-9-2-1,2,4,5,6	
	臨床実習 III	2	III-9-2-1,2,4,5,6	
	手技療法応用実技 I	2	III-10-2-1,4	
	手技療法応用実技 II	2	III-10-2-1,4	

授 業 科 目 名	心理学	科目の位置付け	I - 1 - 1 - 1,2
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次(前期)	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	講義		
担 当 教 員	黄淵熙		
授業の概要・目的	「心理学」は人間の心の仕組みを探り、必要に応じて、その人の支えとなるためには何が できるかを考え、実践する学問である。心理学の主に基礎的分野に関する代表的な理論 を中心とし、心理学全般における基礎知識の習得と理解を目的とする。		
授業のキーワード	心理学、発達、人間、知能、認知		
授業の到達目標	1. 人間の発達を発達期に分けて説明することができる。 2. 記憶の仕組みと種類について述べるすることができる。 3. 知能と環境の関係について理解し、自分の考えを説明することができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	オリエンテーション、心理学とは	
	2	記憶1(記憶の種類)	
	3	記憶2(ワーキングメモリー)	
	4	学習心理学	
	5	発達心理学(認知発達)	
	6	心の発達(愛着、心の理論)	
	7	知能(遺伝か環境か)	
	8	知能検査の概要、知能検査の実際	
	9	社会と人間1(対人認知、対人魅力)	
	10	社会と人間2(社会的影響)	
	11	社会と人間3(態度)	
	12	パーソナリティとは、性格検査	
	13	ストレスとコーピング	
	14	援助行動	
15	授業の総括		
教 科 書	適宜資料を配布する		
参考文献 其他資料	他随時指示する。		
成績評価方法	授業意欲30%、討論 10%、筆記試験60%から総合的に評価する		
履 修 条 件	特になし		
備 考	・授業テーマについて配布資料をよく理解しておくこと。関連事項や用語について調べる などの予習に2時間、重要事項を覚えるなどの復習に2時間程度の学習が必要である。 ・討論課題の意見に関する共有、筆記試験の問題について解説する。		

授 業 科 目 名	論理学	科目の位置付け	I - 1 - 1 - 4,6
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次(後期)	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	講義		
担 当 教 員	安藤恵子		
授業の概要・目的	医療人には論理的思考力と論理的表現力が求められる。本講義では論理学の基礎を学び、種々の分野の話題を論理的に思考する。この一連の過程において論理的に文章読解・作成を行えるようにする。医療における計算スキルを学ぶ。		
授業のキーワード	論理、接続表現、議論の流れ、文章読解、文章作成、計算		
授業の到達目標	接続表現に注意した文章の読解・作成を行える。議論の流れを意識できる。論理的思考を身に付ける。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	ガイダンス：「論理」とは何か	
	2	接続表現の基礎	
	3	接続表現の演習	
	4	帰納的論証と演繹的論証	
	5	帰納的論証の演習	
	6	論証の図式化：単純論証、結合論証、合流論証	
	7	一文一義とパラグラフの基礎	
	8	パラグラフによる文章作成の基礎	
	9	パラグラフによる文章作成のポイントと注意点	
	10	科学・医療系レポート作成の基礎	
	11	レポート作成とパラグラフの推敲	
	12	論理的な読み方の実践	
	13	論理的思考の応用：医療に関連する計算問題	
	14	論理的思考の応用：鍼灸に関連する計算問題	
15	全体のまとめと理解度確認		
教 科 書	看護学生が身に付けたい論理的に書く・読むスキル		
参考文献 其他資料	随時指示する。		
成績評価方法	定期試験(100%)		
履 修 条 件	特になし		
備 考	講義の復習(1時間程度)を行うこと。		

授 業 科 目 名	社会学	科目の位置付け	I - 1 - 1 - 2,3,4,5
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次(後期)	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	講義		
担 当 教 員	大森駿之介		
授業の概要・目的	社会学の基礎概念を学び、それを医療と関連づけて考えることにより、医療者の社会的責任を自覚する。		
授業のキーワード	社会学、常識への疑い、性、ジェンダー、家族		
授業の到達目標	社会学を通じて、医療者の社会的責任を自覚すること		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	社会学とはどんな学問	
	2	社会学の基礎概念	
	3	社会学の視点	
	4	労働からみる社会	
	5	医療からみる社会	
	6	教育からみる社会	
	7	家族からみる社会	
	8	ジェンダー・セクシュアリティからみる社会 1	
	9	ジェンダー・セクシュアリティからみる社会 2	
	10	環境からみる社会	
	11	グローバル化・エスニシティからみる社会	
	12	格差からみる社会	
	13	宗教からみる社会	
	14	メディアからみる社会	
15	評価点検		
教 科 書	『大学生のための社会学入門』（晃洋書房）		
参考文献 其他資料	主に教科書に沿って講義を行うが、途中で講師が作成した資料を使う場合もある。		
成績評価方法	授業内のディスカッションや授業後の感想（30%）学期末の筆記試験(70%)で評価する。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	講義で出てくる用語がわからない時には、メモして後に自分で調べてみることに。		

授 業 科 目 名	中国語	科目の位置付け	I - 1 - 1 - 2
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次(前期)	必 修 ・ 選 択	選択
講 義 形 式	講義・演習		
担 当 教 員	浦山きか		
授業の概要・目的	中国語の発音と基本的な文法を学び、医学的な知識と語彙を中国語でマスターする。		
授業のキーワード	中国語、発音、基礎構文、疾病表現		
授業の到達目標	中国語の発音ができるようになる。基礎構文を踏まえて会話ができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	ガイダンス、中国語に関する基礎知識と基本的な発音	
	2	中国語の母音の発音とピンイン表記	
	3	中国語の子音の発音と声調変化、そのピンイン表記	
	4	中国語のあいさつ、授業用語と孔穴名の発音	
	5	中国語の医療表現 その1	
	6	中国語による自己紹介(文法的には動詞述語文)	
	7	中国語による日記(時間の表現)	
	8	中国語による買い物のしかた(名詞述語文)	
	9	中国語による疾病の表現その1(形容詞述語文)	
	10	中国語による疾病の表現その2(主述述語文)	
	11	中国語による疾病の表現その3(病院用語と病気の名称)	
	12	中医学の短文を読む(陰陽・五行)	
	13	中国語の医療表現 その2	
	14	中国語で経験を話す(文法的には「是～的」とアスペクト)	
15	これまでの授業を踏まえてオリジナルの文章を書き、発表する。		
教 科 書	東大病院発 医療スタッフのための中国語会話 ベレ出版		
参考文献 其他資料	特になし。ただし随時テーマに応じて指示する。		
成績評価方法	期末試験50%、発音試験30%、提出物と授業中のプレゼン20%。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	パソコンまたはスマホが必須。辞書はどんな形態でもよいので持参すること。授業外の自主的な予習復習が必須である。		

授業科目名	英語	科目の位置付け	I-1-1-2
単位数	2単位	時間数	30時間
履修年次	1年次(前期)	必修・選択	選択
講義形式	講義		
担当教員	菅原祐子		
授業の概要・目的	近年、国際化社会が進む中、日本の医療機関に来院する患者で日本語を話さない人、及び海外で鍼灸マッサージ師として活躍する人が増加している。この授業では、日本語を話さない患者への英語対応を教科書で学び、対応するところを動画に撮りながら患者対応の練習をする。この授業では、患者への英語対応についての理解を深め、実際に対応できるようになることを目的とする。		
授業のキーワード	鍼灸マッサージ、英語コミュニケーション能力		
授業の到達目標	①鍼灸マッサージ師として、日本語を母語としない患者への英語での適切な対応を理解する。②鍼灸マッサージ師として、日本語を母語としない患者への英語での対応を練習し、実践できるようになる。③鍼灸マッサージ師として必要な英語(専門用語、英語コミュニケーション力等)を習得する		
授業計画	回	内 容	
	1	シラバスの説明等	
	2	Situation 1, Situation 2, Situation 3 ①	
	3	Situation 1, Situation 2, Situation 3 ②	
	4	Situation 1, Situation 2, Situation 3 ③	
	5	Situation 4, Situation 5 ①	
	6	Situation 4, Situation 5 ②	
	7	Situation 4, Situation 5 ③	
	8	Situation 4, Situation 5 ④	
	9	Situation 6, Situation 7, Situation 8 ①	
	10	Situation 6, Situation 7, Situation 8 ②	
	11	Situation 6, Situation 7, Situation 8 ③	
	12	Situation 6, Situation 7, Situation 8 ④	
	13	Situation 9, Situation 10, Situation 11, Situation 12 ①	
	14	Situation 9, Situation 10, Situation 11, Situation 12 ②	
15	Situation 9, Situation 10, Situation 11, Situation 12 ③ / 総復習		
教科書	「鍼灸マッサージ師のための英会話ハンドブック」		
参考文献 其他資料	特になし		
成績評価方法	テスト 60%、 提出物(提出用配布資料及び動画) 30%、授業態度 10%		
履修条件	特になし		
備考	特になし		

授 業 科 目 名	コミュニケーション理論と実践	科目の位置付け	I - 1 - 1 - 2,5
単 位 数	1単位	時 間 数	15時間
履 修 年 次	1年次(後期)	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	講義・演習		
担 当 教 員	森脇順子		
授業の概要・目的	この講義ではコミュニケーションの概念を理解し、コミュニケーションスキルを多職種連携の組織で効果的に実践できるようにする。 コミュニケーション能力を高め、チームで活躍できる人材を育成する。		
授業のキーワード	多職種連携の組織で効果的に実践できるようにする。		
授業の到達目標	コミュニケーション能力を高め、チームで活躍できる人材を育成する。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	オリエンテーション	
	2	コミュニケーションのしくみ 対人コミュニケーションを理解する	
	3	人間関係を構築する	
	4	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	
	5	社会人基礎力	
	6	コミュニケーションの実践1	
	7	コミュニケーションの実践2	
	8	コミュニケーションの実践3	
	9	コミュニケーションの実践4	
	10	コミュニケーションの実践5	
	11	コミュニケーションの実践6	
	12	コミュニケーションの実践7	
	13	コミュニケーションの実践8	
	14	コミュニケーションの実践9	
15	コミュニケーション能力の向上を目指して(発表) まとめ		
教 科 書	適宜資料を配布する。		
参考文献 其他資料	平木典子「対人関係のスキルを学ぶワークブック」(培風館)		
成績評価方法	ワークの取り組み(20%)、授業後の振り返り(20%)、本試験はレポート課題(60%)から総合的に評価する。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	ワーク中心に進めていくので、積極的な参加を希望する。		

授業科目名	プライマリーセミナー	科目の位置付け	I-1-1-5,6
単位数	2単位	時間数	30時間
履修年次	1年次(通年)	必修・選択	必修
講義形式	講義		
担当教員	宮本俊和、岩昌宏、國分壮一、武藤永治、渡部正司、糟谷俊彦、川嶋睦子		
授業の概要・目的	このプライマリーセミナーでは、中等教育から高等教育への学習環境の変化にスムーズに移行することを目指す。環境や大学生活に慣れるための各種の指導を行い、受動的な学習スタイルから自発的・協働的なスタイルへ転換できるようにする。さらに、将来の就職や人生設計へ繋がるよう、外部講師を招いて交流することで、幅広い教養と身につけ、多様な選択肢があることを学ぶ。		
授業のキーワード	大学生活、情報リテラシー、協働学習、接遇、医療倫理		
授業の到達目標	<p>I. 短期大学で学ぶための能動的な学習態度を養い、基礎的な学習能力を習得することができる(読む・書く・話す・聞く・考える)。</p> <p>II. 情報リテラシー(正しく情報を読み解き、正しく情報を発信できること)を高め、効果的な学習とすることができる。</p> <p>III. 学生間の交流を通し自己理解・他者理解を深め自身の目的志向を高めることができる。また、大学での学習・生活スタイルの確立に向け、生じた問題に対し解決方法をみつけることができる。</p> <p>IV. 課題学習を通し、他者との関係を築きながら自ら学ぶための基礎的態度を養うことができる。</p> <p>V. 伝統医療の施術者になるものとして、信頼を得るための接遇が実践できる。</p>		
授業計画	回	内 容	
	1	オリエンテーション：プライマリーセミナーガイダンス	
	2	同級生との交流(自己紹介)、シラバスの活用	
	3	鍼灸手技学科の設立と使命(AP・EP・DP)	
	4	大学生活の過ごし方① スクールカウンセラー講演	
	5	大学生活の過ごし方② 学習年間計画の立案、学生生活の注意点、大学生活に向けての目標設定、不安・心配を解決する方法を学ぶ。	
	6	大学生活の過ごし方③ 学習習慣を身に着けるための工夫や方法を学ぶ(問題提出や小人数教育)。	
	7	大学生活の過ごし方④ 学内での行事や外部のイベントの紹介(学園祭、講習会、学会など)	
	8	大学生活の過ごし方⑤ 赤門祭(1)	
	9	各教員の専門分野の紹介①	
	10	各教員の専門分野の紹介②	
	11	研究の方法① 図書館の利用法と文献検索法	
	12	研究の方法② 論文の種類と論文の読み方、文献検索の実際(文献を実際に収集)	
	13	大学生活の過ごし方⑥ 定期試験の取り組み方(1)	
14	大学生活の過ごし方⑦ 定期試験の取り組み方(2)		

	15	大学生生活の過ごし方⑧ 臨床実習の心構え
	16	研究の方法③ 収集した文献についての発表
	17	大学生生活の過ごし方⑨ 赤門祭(2)
	18	キャリア支援① 企業展示
	19	キャリア支援② スポーツ
	20	キャリア支援③ 卒業生との交流
	21	キャリア支援④ 卒業後の進路相談
	22	製造業者によるセミナー
	23	研究の方法④ 学会参加(日本伝統医療看護連携学会)
	24	研究の方法⑤ 学会参加(日本伝統医療看護連携学会)
	25	各種鍼灸手技療法の紹介①(経絡治療)
	26	キャリア支援⑤ 訪問鍼灸マッサージ
	27	各種鍼灸手技療法の紹介②(操体法)
	28	各種鍼灸手技療法の紹介③(低周波鍼通電療法)
	29	大学生生活の過ごし方⑩ 定期試験の取り組み方(3)
	30	大学生生活の過ごし方⑪ 2年生にむけた学習計画
教科書	特になし	
参考文献 その他資料	適宜資料配布する。	
成績評価方法	レポート (80%)、グループまとめへの関わり度 (20%)により評価する。	
履修条件	特になし	
備考	積極的な発信、行動を期待する。	

授業科目名	解剖学 I	科目の位置付け	II-2-1-1,4
単位数	3単位	時間数	90時間
履修年次	1年次(前期)	必修・選択	必修
講義形式	講義		
担当教員	國分壮一		
授業の概要・目的	「解剖学 I」の授業では、人体の構造と働きに関する基本的な知識と、それらが臨床疾患とどのように関連しているかについて学ぶ。授業内容には、細胞構造、体表構造、人体の区分、各器官系(循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系)に関する総論と詳細な解説が含まれる。		
授業のキーワード	基本構造、循環器、消化器、神経系、感覚器		
授業の到達目標	基本構造、循環器、消化器、神経系、感覚器の代表的な構造と働きについて説明することができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	解剖学総論1 細胞・体表構造・人体の区分と方向	
	2	解剖学総論2 組織 I	
	3	解剖学総論3 組織 II	
	4	解剖学総論4 組織 III	
	5	循環器系・呼吸器系の総論	
	6	循環器系1 血管系・心臓	
	7	循環器系2 動脈系・静脈系・	
	8	循環器系3 胎児循環・リンパ系	
	9	呼吸器系1 鼻腔、副鼻腔・咽頭・喉頭	
	10	呼吸器系2 気管・気管支・肺	
	11	消化器系・泌尿器系の総論	
	12	消化器系1 消化管の基本構造	
	13	消化器系2 口腔・咽頭・食道	
	14	消化器系3 胃・小腸(十二指腸・空腸、回腸)	
	15	消化器系4 大腸・肝臓	
	16	消化器系5 膵臓・胆嚢・腹膜	
	17	泌尿器系1 腎臓	
	18	泌尿器系2 尿路	
	19	生殖器系・内分泌系の総論	
	20	生殖器系1 男性生殖器	
21	生殖器系2 女性生殖器		

	22	生殖器系3 受精と発生
	23	内分泌系1 下垂体・松果体
	24	内分泌系2 甲状腺・上皮小体・副腎
	25	内分泌系3 膵臓・性腺
	26	神経系の総論
	27	神経系1 神経系の構成
	28	神経系2 中枢神経系(1) 脊髄・延髄・橋・中脳
	29	神経系3 中枢神経系(2) 小脳・間脳・大脳・脳室系
	30	神経系4 中枢神経系(3) 髄膜・脳脊髄液・脳の血管
	31	神経系5 伝導路
	32	神経系6 末梢神経系(1) 脳神経Ⅰ
	33	神経系7 末梢神経系(2) 脳神経Ⅱ
	34	神経系8 末梢神経系(3) 脳神経Ⅲ
	35	神経系9 末梢神経系(4) 脊髄神経Ⅰ
	36	神経系10 末梢神経系(5) 脊髄神経Ⅱ
	37	神経系11 末梢神経系(6) 脊髄神経Ⅲ
	38	神経系12 末梢神経系(5) 脊髄神経Ⅳ
	39	神経系13 末梢神経系(5) 自律神経Ⅰ
	40	神経系14 末梢神経系(5) 自律神経Ⅱ
	41	感覚器系の総論
	42	感覚器系1 視覚器
	43	感覚器系2 平衡聴覚器
	44	感覚器系3 味覚器・臭覚器
	45	通年まとめ
教科書	東洋療法学校協会編教科書 解剖学(第2版)とテキスト(プレゼン資料)	
参考文献 其他資料	日本人体解剖学やプロメテウスの様な基本的な書籍	
成績評価方法	定期試験の結果を元に評価する。	
履修条件	特になし	
備考	特になし	

授業科目名	解剖学Ⅱ	科目の位置付け	Ⅱ-2-1-1,4
単位数	3単位	時間数	90時間
履修年次	1年次(後期)	必修・選択	必修
講義形式	講義		
担当教員	國分壮一		
授業の概要・目的	解剖学Ⅱでは、人体の運動器系に重点を置き学ぶ。骨、筋、関節の各部位に焦点を当て、それらの構造と機能を詳細に理解する。また、体表解剖と局所解剖学の実習を通じて、臨床的な視点から解剖学の重要性を深く学ぶ。この授業は、医療分野における実践的な知識と技術の基礎を築くことを目的とする。		
授業のキーワード	運動器、局所解剖、局所解剖		
授業の到達目標	骨、筋、関節の各部位の構造を理解し、臨床的に説明することができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	運動器系1 骨の総論	
	2	運動器系2 筋の総論	
	3	運動器系3 脊柱の骨Ⅰ	
	4	運動器系4 脊柱の骨Ⅱ	
	5	運動器系5 脊柱の筋	
	6	運動器系6 胸郭の骨Ⅰ	
	7	運動器系7 胸郭の骨Ⅱ	
	8	運動器系8 胸部・腹部の筋	
	9	運動器系9 上肢の骨	
	10	運動器系10 上肢の筋(1) 上肢帯の筋	
	11	運動器系11 上肢の筋(2) 上腕の筋	
	12	運動器系12 上肢の筋(3) 前腕・手部の筋	
	13	運動器系13 肩関節・肘関節・腕関節	
	14	運動器系14 下肢の骨	
	15	運動器系15 下肢の筋(1) 下肢帯の筋	
	16	運動器系16 下肢の筋(2) 大腿の筋	
	17	運動器系17 下肢の筋(3) 下腿・足部の筋	
	18	運動器系18 股関節・膝関節・足関節	
	19	運動器系19 頭部の骨	
	20	運動器系20 頭部の筋・会陰の筋	
21	体表解剖1 前胸部・腹部の体表解剖学		

	22	体表解剖2 前胸部・腹部の実習
	23	体表解剖3 後頸部・胸部の体表解剖
	24	体表解剖4 後頸部・胸部の実習
	25	体表解剖5 腰部・殿部の体表解剖
	26	体表解剖6 腰部・殿部の実習
	27	体表解剖7 上肢の体表解剖
	28	体表解剖8 上肢の実習
	29	体表解剖9 下肢の体表解剖
	30	体表解剖10 下肢の実習
	31	体表解剖11 頭部の体表解剖
	32	体表解剖12 頭部の実習
	33	局所解剖学1 前頸部 I
	34	局所解剖学2 前頸部 II
	35	局所解剖学3 胸部
	36	局所解剖学4 腹部 I
	37	局所解剖学5 腹部 II
	38	局所解剖学6 後頸部・胸部
	39	局所解剖学7 腰部・殿部 I
	40	局所解剖学8 腰部・殿部 II
	41	局所解剖学9 上肢 I
	42	局所解剖学10 上肢 II
	43	局所解剖学11 下肢 I
	44	局所解剖学12 下肢 II
	45	通年まとめ
教科書		東洋療法学校協会編教科書 解剖学(第2版)とテキスト(プレゼン資料)
参考文献 その他資料		日本人体解剖学やプロメテウスの様な基本的な書籍
成績評価方法		定期試験の結果を元に評価する。。
履修条件		特になし
備考		特になし

授 業 科 目 名	生理学 I	科目の位置付け	II - 2 - 1 - 1
単 位 数	2単位	時 間 数	60時間
履 修 年 次	1年次(前期)	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	講義		
担 当 教 員	高橋はるか		
授業の概要・目的	<p>人体の生理機能について学習し、その意義と調節機構を理解する。 生理学の基本知識を習得し、他の教科や2年次以降の学習の基礎を固めることを目標とする。</p>		
授業のキーワード	循環、呼吸、消化と吸収、排泄		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書に書かれていることを理解できる。 2. 適切なキーワードを解答できる。 3. 国家試験の過去問題を解ける。 4. 国家試験の過去問題を解説できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	オリエンテーション／第1章：生理学の基礎1	
	2	第1章：生理学の基礎2	
	3	第1章：生理学の基礎3	
	4	第2章：循環1	
	5	第2章：循環2	
	6	第2章：循環3	
	7	第2章：循環4	
	8	第2章：循環5	
	9	第2章：循環6	
	10	第1章・第2章復習	
	11	第3章：呼吸1	
	12	第3章：呼吸2	
	13	第3章：呼吸3	
	14	第4章：消化と吸収1	
	15	第4章：消化と吸収2	
	16	第4章：消化と吸収3	
	17	第4章：消化と吸収4	
	18	第3章・第4章復習	
	19	第1章～第4章復習 1	
20	第1章～第4章復習 2		

	21	中間試験
	22	第5章：代謝1
	23	第5章：代謝2
	24	第6章：体温1
	25	第6章：体温2
	26	第7章：排泄1
	27	第7章：排泄2
	28	第7章：排泄3
	29	第5章・第6章・第7章復習 1
	30	第5章・第6章・第7章復習 2
教科書	東洋療法学校協会編教科書 生理学(第3版)	
参考文献 その他資料	東洋療法学校協会編教科書 解剖学(第2版)	
成績評価方法	中間試験（授業内実施）および定期試験の結果をもってその学期の評価とする。	
履修条件	特になし	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前資料を基に、キーワードを拾いながら教科書を読んでおくこと。(予習30分程度) ・ 復習として事前資料の穴埋め問題、国家試験過去問題を解くこと。(復習1時間程度) ・ 課題(国家試験過去問題から抜粋)については授業内で解説を行う。 	

授業科目名	生理学Ⅱ	科目の位置付け	Ⅱ-2-1-1
単位数	2単位	時間数	60時間
履修年次	1年次(後期)	必修・選択	必修
講義形式	講義		
担当教員	笹野泰之		
授業の概要・目的	神経、筋、運動、感覚、内分泌等の生理学について講義する。教科書の該当箇所に記載されている内容を理解し、知識として定着させることを目的とする。		
授業のキーワード	神経、筋、運動、感覚、内分泌、生殖・成長と老化、生体の防御機構		
授業の到達目標	生体が環境に適応する仕組みとホメオスタシス調節機構の基本を説明できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	第10章 神経総論	
	2	第10章 神経線維の興奮伝達、シナプス伝達	
	3	第10章 中枢神経総論	
	4	第10章 反射、脊髄、脳幹、小脳	
	5	第10章 視床、視床下部	
	6	第10章 大脳、脳脊髄液	
	7	第10章 末梢神経総論	
	8	第10章 自律神経 1	
	9	第10章 自律神経 2	
	10	第11章 筋総論	
	11	第11章 骨格筋の構造と働き、筋の収縮の仕組み	
	12	第11章 筋のエネルギー供給の仕組み、心筋と平滑筋	
	13	第12章 運動総論	
	14	第12章 骨格筋の神経支配、運動の調節	
	15	授業の総括 第10章 第11章 第12章	
	16	第13章 感覚総論	
	17	第13章 体性感覚、内臓感覚	
	18	第13章 痛覚	
	19	第13章 味覚と嗅覚、聴覚、平衡感覚	
	20	第13章 視覚	
21	第8章 内分泌総論		

	22	第8章 ホルモンの特徴、種類と働き 1
	23	第8章 ホルモンの特徴、種類と働き 2
	24	第8章 ホルモンの特徴、種類と働き 3
	25	第9章 生殖・成長と老化 総論
	26	第9章 生殖・成長と老化 各論
	27	第14章 生体の防御機構 総論
	28	第14章 生体の防御機構 各論、第15章 身体活動の協調
	29	授業の総括 第13章 第8章 第9章 第14章
	30	生理学IIの総まとめ
教科書	生理学 第3版 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版	
参考文献 其他資料	参考資料は授業時に随時配布する。	
成績評価方法	出席と試験の成績により評価する。	
履修条件	特になし。	
備考	授業内容を十分に復習すること。復習には2時間程度の学習が必要である。	

授 業 科 目 名	衛生学・公衆衛生学	科目の位置付け	II-3-1-1,3
単 位 数	2単位	時 間 数	60時間
履 修 年 次	1年次(通期)	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	講義		
担 当 教 員	長岡靖彦		
授業の概要・目的	生命・生活に影響を与える様々な要因から個人・集団を守り、その健康保持・増進、疾病予防などを図るための知識・方法を学び理解する。		
授業のキーワード	健康、生活環境、消毒、感染、疫学、保健統計		
授業の到達目標	1. 施術環境に影響を与える要因を理解し、衛生管理を実践できるようになる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	衛生学・公衆衛生学の意義	
	2	健康(1) 健康の概要	
	3	健康(2) 健康管理と健康増進	
	4	健康(3) 衛生行政、医療制度と医療保障	
	5	ライフスタイルと健康(1) 食品と栄養：食品の意義と食生活、保健機能食品	
	6	ライフスタイルと健康(2) 食品と疾病：栄養素と健康・疾病、経口感染症など	
	7	ライフスタイルと健康(3) 食品と疾病：食品加工と添加物	
	8	ライフスタイルと健康(4) 食品と疾病：食中毒①	
	9	ライフスタイルと健康(5) 食品と疾病：食中毒② / 運動と健康	
	10	環境と健康(1) 環境とは	
	11	環境と健康(2) 日常生活環境:物理的環境要因	
	12	環境と健康(3) 日常生活環境:化学的環境要因①	
	13	環境と健康(4) 日常生活環境:化学的環境要因②、生物学的環境要因	
	14	環境と健康(5) 環境問題：公害	
	15	環境と健康(6) 地球規模の環境問題	
	16	産業保健	
	17	精神保健(1) 精神保健の概要、精神保健の現状と分類	
	18	精神保健(2) 主な精神科疾患、関連法と精神障害者に対する医療と保護	
	19	母子保健	
	20	学校保健	
21	成人・高齢者保健(1) 意義、加齢と老化、生活習慣病①		

	22	成人・高齢者保健(2) 生活習慣病②、高齢者の保健福祉、介護保険、難病
	23	感染症とその対策(1) 意義と種類
	24	感染症とその対策(2)発生要因と予防、免疫
	25	滅菌法・消毒法(1) 滅菌法・消毒法の概要と種類
	26	滅菌法・消毒法(2) 滅菌法・消毒法の実際、
	27	滅菌法・消毒法(3) 医療関連感染、医療廃棄物
	28	疫学
	29	保健統計(1)保健統計の意義と主な保健統計
	30	保健統計(2)主な保健統計指標
教科書		『衛生学・公衆衛生学』 東洋療法学校協会編
参考文献 其他資料		参考となる文献、資料(URLを含む)を適宜紹介する。
成績評価方法		定期試験(100%)
履修条件		特になし
備考		予習として、教科書の関連部分を読み、わからない用語についてその意味を調べて全体像を把握してほしい。(1時間)。復習として、各事項の情報・知識を整理し、それを引き出すためのキーワードを探し覚えるようにしてほしい(1時間)。

授業科目名	リハビリテーション医学	科目の位置付け	II-3-1-1
単位数	1単位	時間数	60時間
履修年次	1年次(通年)	必修・選択	必修
講義形式	講義		
担当教員	笠原岳人		
授業の概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの概念および歴史と発展について学習する ・医療、介護、在宅におけるリハビリテーションの展開について学習する ・疾患別の特徴を踏まえたリハビリテーションの実際を理解する 		
授業のキーワード	・リハビリテーション ・評価 ・治療		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・障害を抱えた人に必要なリハビリテーションの意味を説明することができる ・リハビリテーションの評価と訓練について説明することができる ・疾患別の特徴を捉えながらリハビリテーションの関わりを理解することができる 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	リハビリテーション医学の歴史と発展	
	2	リハビリテーション医学の展開	
	3	リハビリテーション医学の関連職種	
	4	リハビリテーション医学の現状と課題	
	5	評価法 ① 姿勢評価と歩行分析	
	6	評価法 ② 身体計測 (四肢長 ・四肢周径)	
	7	評価法 ③ 関節可動域 ・徒手筋力検査	
	8	評価法 ④ 日常生活動作評価 ・協調性テスト	
	9	運動療法 ① 運動療法の種類と内容	
	10	運動療法 ② 上下肢の運動療法	
	11	運動療法 ③ 体幹の運動学療法	
	12	治療法 ① 理学療法	
	13	治療法 ② 作業療法 ・言語療法	
	14	治療法 ③ 物理療法 ・補装具	
	15	前期のまとめ	
	16	肢体不自由	
	17	廃用症候群	
	18	疾患 ① 脳血管障害	
	19	疾患 ② 脊髄損傷	
	20	疾患 ③ 小児疾患	
21	疾患 ④ 関節リウマチ		

	22	疾患 ⑤ 糖尿病
	23	疾患 ⑥ 切断
	24	疾患 ⑦ 精神疾患（うつ病）
	25	疾患 ⑧ 整形外科疾患（骨折・変形性関節症）
	26	疾患 ⑨ スポーツ傷害
	27	生活習慣病の原因と予防
	28	高齢期の身体変化
	29	高齢期の介護予防
	30	後期のまとめ
教科書	リハビリテーション医学（南江堂）	
参考文献 其他資料	特になし	
成績評価方法	筆記試験(60%)、小テスト(20%)、授業意欲(20%)から総合的に判断して成績評価を行う	
履修条件	特になし	
備考	特になし	

授 業 科 目 名	医療概論	科目の位置付け	II-4-1-1,5
単 位 数	1単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次(前期)	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	講義		
担 当 教 員	神成有己		
授業の概要・目的	<p>①国家試験の範囲を中心に医療従事者が覚えておくべき知識・倫理などを覚える。</p> <p>②医学史を通じて過去から現在へどのように医学が繋がっているか理解する。</p>		
授業のキーワード	医療倫理、医学史、現代医学の課題、医療制度、医療従事者の基礎知識		
授業の到達目標	医学史を通じて自身が携わる鍼灸ならびに医療全体へ関心を持つ		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	ガイダンス・医療概論とは？	
	2	現代医学の課題①	
	3	現代医学の課題②	
	4	現代の医療制度	
	5	医療倫理①	
	6	医療倫理②	
	7	古代の医学と中世の医学①	
	8	中世の医学②とルネッサンス	
	9	17.18世紀の医学	
	10	19世紀以降の医学	
	11	アーユルヴェーダなど諸アジアの医学	
	12	中国医学史概説①	
	13	中国医学史概説②	
	14	日本医学史概説①	
15	日本医学史概説②		
教 科 書	東洋療法学校協会編教科書 医療概論		
参考文献 其他資料	テキストを基にプレゼンテーションで補足説明する形式で講義する。		
成績評価方法	定期試験(100%)の結果をもってその学期の評価とする。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	医療に関わるニュースにアンテナを張っていて欲しい。		

授業科目名	整復概論	科目の位置付け	II-4-1-1
単位数	1単位	時間数	30時間
履修年次	1年次(後期)	必修・選択	必修
講義形式	演習		
担当教員	石垣 寛高		
授業の概要・目的	骨折や脱臼、捻挫、筋肉損傷などの外傷について、発生原因・症状などについての学び、また理解するうえで必要な骨や関節、靭帯、筋肉などの構造の基本的な内容の理解と、治療法として使用される包帯や運動療法、テーピング、物理療法などの概要について学び、これから学ぶ様々な内容についての土台を身に着ける。		
授業のキーワード	外傷、治療法		
授業の到達目標	運動器の損傷について理解する。各種治療法について理解する。		
授業計画	回	内 容	
	1	オリエンテーション	
	2	運動器の構造①	
	3	運動器の構造②	
	4	運動器の構造③	
	5	運動器の構造④	
	6	物理療法①	
	7	物理療法②	
	8	物理療法③	
	9	外傷概論①	
	10	外傷概論②	
	11	外傷概論③	
	12	治療法①	
	13	治療法②	
	14	治療法③	
15	復習		
教科書	特になし		
参考文献 其他資料	必要に応じて適宜紹介する。		
成績評価方法	小テスト(10%)、課題提出(10%)、期末試験(80%)		
履修条件	特になし		
備考	毎回の授業の復習を行うこと。		

授業科目名	東洋医学概論	科目の位置付け	Ⅲ-5-1-1,4
単位数	2単位	時間数	60時間
履修年次	1年次(通年)	必修・選択	必修
講義形式	講義		
担当教員	宮本 俊和		
授業の概要・目的	前期は東洋医学の基礎概念となる陰陽五行学説、生体物質について学ぶ。後期は各蔵象の生理・病理を学び、2学年で学ぶ病証への足掛かりを作る。		
授業のキーワード	東洋医学、陰陽学説、五行学説、気血津、蔵象学説		
授業の到達目標	東洋医学の基礎理論と特徴について説明できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業の概要	
	2	東洋医学の考え方	
	3	人体の見方、東洋医学的治療(p13-28)	
	4	日本の東洋医学の現状(p29-36)	
	5	陰陽学説(p181-187)	
	6	五行学説(p188-200)	
	7	五行学説(p188-200)	
	8	前期中間のまとめ(五行色体表・陰陽分類)	
	9	生体物質<精の生理・病理>(p37-42)	
	10	生体物質<気の生理>(p42-46)	
	11	生体物質<気の病理>(p46-50)	
	12	生体物質<血の生理・病理>(p50-53)	
	13	生体物質<津液の生理・病理>(p54-58)	
	14	生体物質の相互関係(p58-62)	
	15	前期のまとめ	
	16	神の概念・生理・病理(p62-68)	
	17	人体による陰陽 (p68-73)	
	18	蔵象学説、肝系統 (p74-87)	
	19	肝系統<生理・病理> (p77-87)	
	20	心系統<生理・病理> (p87-97)	
21	心系統<生理・病理> (p87-97)		

	22	脾系統<生理・病理> (p97-106)
	23	脾系統<生理・病理> (p97-106)
	24	肺系統<生理・病理> (p106-115)
	25	肺系統<生理・病理> (p106-115)
	26	腎系統<生理・病理> (p115-125)
	27	腎系統<生理・病理> (p115-125)
	28	三焦(p125-127)
	29	後期まとめ
	30	東洋医学概論と鍼灸手技療法
教科書	新版 東洋医学概論 第1版8刷	
参考文献 その他資料	教科書を元に進め、適宜プリント配布や課題を出して理解を深める。	
成績評価方法	定期試験の結果を元に評価する。	
履修条件	特になし	
備考	東洋医学は、長い歴史の変遷と経験知から生まれた医学である。東洋医学特有の概念は、鍼灸手技療法を行なう上での基盤になるので教科書や授業資料を習熟に努めてほしい。	

授 業 科 目 名	経絡経穴概論 I	科目の位置付け	Ⅲ-5-1-1,4
単 位 数	2単位	時 間 数	60時間
履 修 年 次	1年次(前期)	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	講義		
担 当 教 員	岩昌宏		
授業の概要・目的	経絡経穴は、鍼灸臨床を行う上で欠かせないものであり、鍼灸師になるには必ず修得しなければならないものである。本科目では、経絡・経穴の概要、取穴法、十四経脈とそれに属する経穴、奇経八脈、奇穴、要穴について学習する。将来の鍼灸臨床で活用できるように、骨や筋などの体表解剖を理解した上で、経絡や経穴の名称と部位を修得することを目的とする。		
授業のキーワード	正経十二経脈, 奇形八脈, 骨度法, 要穴, 十四経脈, 奇穴		
授業の到達目標	十四経脈とそれに属する経穴、奇穴の名称と部位を理解し説明できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	ガイダンス, 経絡と経穴の概要と骨度法	
	2	督脈(GV)	
	3	任脈(CV)	
	4	手の太陰肺経(LU)	
	5	手の陽明大腸経(LI)	
	6	足の陽明胃経(ST)①頭顔面部・頸部, 胸腹部	
	7	足の陽明胃経(ST)②下肢	
	8	第1-7回のまとめ ※第1-7回に学習した内容について小テストを行う。	
	9	足の太陰脾経(SP)	
	10	手の少陰心経(HT)	
	11	手の太陽小腸経(SI)	
	12	足の太陽膀胱経(BL)①頭顔面部, 背部(第一行線)	
	13	足の太陽膀胱経(BL)②仙骨部, 背部(第二行線)	
	14	足の太陽膀胱経(BL)③下肢	
	15	第9-14回のまとめ ※第9-14回に学習した内容について小テストを行う。	
	16	足の少陰腎経(KI)	
	17	手の厥陰心包経(PC)	
	18	手の少陽三焦経(TE)	
	19	足の少陽胆経(GB)①頭顔面部, 肩	
	20	足の少陽胆経(GB)②胸腹部, 下肢	
21	足の厥陰肝経(LR)		

	22	第16-21回のまとめ ※第16-21回に学習した内容について小テストを行う。
	23	奇経八脈と奇穴①頭頸部, 腹部
	24	奇穴②背部, 上肢, 下肢, 経穴の組合せ
	25	五要穴: 原穴, 郄穴, 絡穴, 募穴, 背部俞穴
	26	五俞穴と五行穴
	27	その他の要穴: 四総穴, 八会穴, 八脈交会穴, 交会穴, 下合穴
	28	経絡・経穴の現代的研究①
	29	経絡・経穴の現代的研究②
	30	第23-29回のまとめ ※第23-29回に学習した内容について小テストを行う。
教科書		「新版 経絡経穴概論 第2版10刷」 (社)東洋療法学校協会編, 医道の日本社
参考文献 その他資料		配布資料
成績評価方法		1.出席基準を満たした者に期末試験を実施する。 2.評価: 授業内小テスト(計20%、全4回各5%)と期末試験(80%)を総合(100%)して評価する。
履修条件		特になし
備考		特になし

授 業 科 目 名	経絡経穴概論Ⅱ	科目の位置付け	Ⅲ-5-1-1,4
単 位 数	1単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次(後期)	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	講義		
担 当 教 員	岩昌宏		
授業の概要・目的	<p>本科目では、鍼灸師が鍼灸臨床に用いる経絡や経穴を学習する。「経絡経穴学Ⅰ」で学習した知識を基に、実際に人体に取穴し、経穴の部位を学ぶ。経絡と所属する経穴の部位を理解し、取穴する技術を修得することを目標とする。</p>		
授業のキーワード	十四経脈, 経穴, 取穴, 骨度法, 体表観察		
授業の到達目標	<p>①取穴に必要な解剖学的部位および体表指標(骨, 筋など)を理解し、触察できる。 ②骨度法を用いて正確に経穴を取穴できる。</p>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	ガイダンス, 体表指標・骨度法の復習	
	2	頭顔面部前面の経穴	
	3	頭顔面・頸部側面の経穴	
	4	後頭部, 肩背部の経穴	
	5	背部の経穴	
	6	腰部の経穴	
	7	殿部, 大腿後面, 大腿前面, 大腿外側の経穴	
	8	胸部の経穴	
	9	上腹部の経穴	
	10	下腹部の経穴	
	11	上腕前面, 上腕後面, 上腕外側の経穴	
	12	前腕前面(手の太陰肺経, 手の厥陰心包経, 手の少陰心経)の経穴	
	13	前腕後面(手の陽明大腸経, 手の少陽三焦経, 手の太陽小腸経)の経穴	
	14	下腿前面(足の陽明胃経), 下腿外側(足の少陽胆経), 下腿後面(足の太陽膀胱経)の経穴	
	15	下腿内側(足の太陰脾経, 足の少陰腎経, 足の厥陰肝経)の経穴	
教 科 書	「新版 経絡経穴概論 第2版10刷」 (社)東洋療法学校協会編, 医道の日本社		
参考文献 其他資料	配布資料		
成績評価方法	<p>1.出席基準を満たした者に期末試験を実施する。 2.評価: 期末試験(100%)にて評価する。</p>		
履 修 条 件	特になし		
備 考	特になし		

授 業 科 目 名	手技療法基礎実技 I (按摩)	科目の位置付け	Ⅲ-8-1-1,4
単 位 数	2単位	時 間 数	60時間
履 修 年 次	1年次(通年)	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	演習		
担 当 教 員	武藤永治		
授業の概要・目的	手技療法基礎実技 I (按摩)では、あん摩の基本技術と全身あん摩に必要な技術を実習により学ぶ。この授業は、臨床実習の前段階として重要であり、全身あん摩と併用する運動法や物理療法の基礎を習得する。授業の到達目標は、各部位のあん摩法を学び、全身あん摩を円滑に行えるようにすることである。		
授業のキーワード	あん摩の意義, 身だしなみ, 心構え, 態度, 手指操練法・基本手技		
授業の到達目標	各部位のあん摩法を学び、全身あん摩を円滑に行うことができるようにする。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	あん摩実技について・あん摩の基本手技・施術上の注意事項	
	2	坐位のあん摩術 肩背部・軽擦法・把握牽引法・手根揉捏法	
	3	坐位のあん摩術 肩背部・圧迫法・叩打法・曲手	
	4	座位のあん摩法 肩背部・拇指揉捏法	
	5	坐位のあん摩術 頸部・軽擦法・揉捏法・圧迫法	
	6	坐位のあん摩術 肩背部, 肩甲部, 前胸部, 頸部・軽擦法・揉捏法・圧迫法・叩打法・曲手	
	7	側臥位のあん摩術 肩背部・軽擦法・把握牽引法・揉捏法・圧迫法	
	8	側臥位のあん摩術 肩背部, 前胸部・軽擦法・把握牽引法・揉捏法・圧迫法	
	9	側臥位のあん摩術 上肢・軽擦法・揉捏法・圧迫法・二指揉捏・きりもみ状揉捏・手掌把握・運動法	
	10	側臥位のあん摩術 腰部・臀部・軽擦法・揉捏法・圧迫法・叩打法・曲手	
	11	側臥位のあん摩術 下肢・軽擦法・揉捏法・圧迫法・叩打法・曲手	
	12	側臥位のあん摩術 上半身・肩背部, 上肢, 頭部, 頸部・軽擦法・揉捏法	
	13	側臥位のあん摩術 下半身・腰部, 臀部, 下肢・軽擦法・揉捏法・圧迫法・叩打法・曲手	
	14	側臥位のあん摩術 総括	
	15	前期実技の追加説明とまとめ	
	16	あん腹法・軽擦法・揉捏法・圧迫法・振せん法・曲手	
	17	腹臥位のあん摩法 肩上部・拇指揉捏法・圧迫法	
	18	腹臥位のあん摩法 頸部 頭部・拇指揉捏法・圧迫法	
	19	腹臥位のあん摩法 肩甲間部・拇指揉捏法	
20	腹臥位のあん摩法 肩甲部・拇指揉捏法		

	21	腹臥位のあん摩法 背腰部・両拇指揉捏法・圧迫法
	22	腹臥位のあん摩法 臀部 下肢・拇指揉捏法・圧迫法
	23	背臥位のあん摩法 頸部・四指揉捏法
	24	背臥位のあん摩法 上肢・軽擦法・把握揉捏法・拇指圧迫法
	25	背臥位のあん摩法 下肢・軽擦法・拇指揉捏法・把握揉捏法
	26	背臥位のあん摩法 足部・四指揉捏法・運動法・伸長法
	27	古法あん摩法の基本手技
	28	六角三陰三陽経絡あん摩法
	29	全身あん摩法(上半身、下半身をとおしての実技)
	30	全身あん摩法(症状に応じた実技)
教科書	あん摩マッサージ指圧実技〈基礎編〉第1版31刷	
参考文献 その他資料	「理療基礎実習(上巻)」東京都立文教学校理療科研究会著	
成績評価方法	実技試験	
履修条件	特になし	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・原則毎授業ごとに清潔な日本手ぬぐいを持参するとともに、爪などの手入れを怠らないこと。 ・技術習得のため日頃の学生相互の基本的な反復練習に心がけること。 特に長期休業においても有効に自己練習を行うこと。 	

授 業 科 目 名	手技療法基礎実技Ⅱ(マッサージ)	科目の位置付け	Ⅲ-8-1-1,4
単 位 数	2単位	時 間 数	60時間
履 修 年 次	1年次(通年)	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	演習		
担 当 教 員	糟谷俊彦		
授業の概要・目的	<p>マッサージは、機械、器具などを用いなくて、術者の手で、体表に力学的(触れる、撫でる、揉む、押す、震わせる、叩くなど)を与えて、生体に反応を起し、生体の調整を調える施術であることを知る。求心性に行い、血液やリンパの循環を良くして行く施術であることを知る。マッサージの運動法は、あん摩法、指圧法とは違い、基本手技の中には入っておらず、基本手技から分離されている。運動法には、他動運動法は、筋力テスト0～1、自動介助運動法は、筋力テスト1、2、自動運動法は筋力テスト3、抵抗運動法筋力テスト4.5の場合に行う。その他、漸増抵抗運動があることを知る。</p>		
授業のキーワード	手技療法,マッサージ法		
授業の到達目標	マッサージの基本的手技を十分に知るようにし、それに伴う治療法を知る。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	マッサージの意義、基本手技の種類・基本手技、打法	
	2	マッサージの歴史、あま指の相違、基本手技、打法	
	3	軽擦法、生理的作用、留意点、手部、前腕部	
	4	強擦法、生理的作用、留意点、上腕部、足部、下腿部	
	5	揉捏法、生理的作用、留意点、大腿部、臀部、僧帽筋部	
	6	叩打法、生理的作用、留意点、広背筋群、棘下筋、脊柱起立筋	
	7	振せん法、生理的作用、留意点、頸部、頭部、胸部	
	8	圧迫法、生理的作用、留意点、腹部	
	9	運動法、生理的作用、留意点、手部、前腕部、上腕部	
	10	足部、下腿部、大腿部	
	11	臀部、僧帽筋部、広背筋群、棘下筋	
	12	脊柱起立筋、頸部、頭部	
	13	胸部、腹部	
	14	足部、下腿部、大腿部	
	15	臀部、僧帽筋部、広背筋群、棘下筋	
	16	脊柱起立筋、頸部、頭部	
	17	胸部、腹部	
	18	筋肉系マッサージの全体復習	
	19	手関節、肘関節、肩関節	
20	足関節、膝関節、股関節		

	21	手関節、肘関節、肩関節
	22	足関節、膝関節、股関節
	23	手関節、肘関節、肩関節
	24	足関節、膝関節、股関節
	25	関節系マッサージの全体復習
	26	手部、前腕部、上腕部、足部、下腿部、大腿部、臀部、僧帽筋部
	27	広背筋群、棘下筋、広背筋群、棘下筋、脊柱起立筋、頸部、頭部
	28	胸部、腹部、手関節、肘関節、肩関節、足関節、膝関節、股関節
	29	関節の痛みに対する筋肉系、関節系マッサージによる治療法
	30	筋肉系マッサージ、関節系マッサージの総復習
教科書	あん摩マッサージ指圧実技〈基礎編〉第1版31刷	
参考文献 其他資料	基本手技、簡単理論のプリント、関節マッサージのプリント	
成績評価方法	実技試験	
履修条件	特になし	
備考	<p>マッサージ法の基本手技を読んでおくこと。</p> <p>疾患別の簡単なマッサージ法を学習する。</p>	

授 業 科 目 名	手技療法基礎実技Ⅲ(指圧)	科目の位置付け	Ⅲ-8-1-1,4
単 位 数	2単位	時 間 数	60時間
履 修 年 次	1年次(通年)	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	演習		
担 当 教 員	糟谷俊彦		
授業の概要・目的	指圧の基本手技は、押圧と運動操作の2法であることを知る。指圧はマッサージのような基本手技はないが、単一の圧迫手技を基本とし、それに一点圧、断続圧、持続圧、軽刺激、中等度刺激、強刺激などの圧法の形式に変化、つまり複合圧として応用していくものである。それは、刺激の強度、作用時間、刺激の総量を加減調整する。特に、漸増圧、漸減圧を多く用いる場合が多いことを知る。押圧の3原則を理解する。第1の原則(垂直圧の原則)、第2の原則(持続の原則)、第3の原則(集中の原則)である。		
授業のキーワード	指圧法、手技療法		
授業の到達目標	指圧の基本的な手技を十分に知るようにし、それに伴う治療法を知る。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	指圧の意義、基本手技、押圧操作の3原則、圧法 / 伏臥位・背部	
	2	臀部、下肢部、下肢部運動法、後頭部	
	3	後頭部 / 仰臥位・前頭部、顔面部、前頸部、上肢部、上肢部運動法	
	4	下肢部、下肢部運動法、胸部、	
	5	腹部 / 側臥位・肩甲骨部 / 座位・・肩上部、頸部、上体など運動法、	
	6	伏臥位・背部、臀部、下肢部、下肢部運動法	
	7	後頭部、後頸部 / 仰臥位・前頭部、顔面部、前頸部、上肢部、上肢部運動法	
	8	下肢部、下肢部運動法、胸部	
	9	腹部 / 側臥位・肩甲骨部 / 座位・・肩上部、頸部、上体など運動法、	
	10	伏臥位・背部、臀部、下肢部、下肢部運動法	
	11	後頭部、後頸部 / 仰臥位・前頭部、顔面部、前頸部、上肢部、上肢部運動法	
	12	下肢部、下肢部運動法、胸部	
	13	腹部 / 側臥位・肩甲骨部 / 座位・・肩上部、頸部、上体など運動法、	
	14	伏臥位・背部、臀部、下肢部、下肢部運動法	
	15	後頭部、後頸部 / 仰臥位・前頭部、顔面部、前頸部、上肢部、上肢部運動法	
	16	下肢部、下肢部運動法、胸部	
	17	腹部 / 側臥位・肩甲骨部 / 座位・・肩上部、頸部、上体など運動法	
	18	伏臥位・背部、臀部、下肢部、下肢部運動法	
	19	後頭部、後頸部 / 仰臥位・前頭部、顔面部、前頸部、上肢部、上肢部運動法	
	20	下肢部、下肢部運動法、胸部	
21	腹部 / 側臥位・肩甲骨部 / 座位・・肩上部、頸部、上体など運動法		

	22	伏臥位・背部、臀部、下肢部、下肢部運動法
	23	後頭部、後頸部 / 仰臥位・前頭部、顔面部、前頸部、上肢部、上肢部運動法
	24	下肢部、下肢部運動法、胸部
	25	腹部 / 側臥位・肩甲骨部 / 座位・・肩上部、頸部、上体など運動法
	26	指圧法の全体復習
	27	肩凝りの原因、症状、指圧法
	28	腰痛の原因、症状、指圧法
	29	肩凝り、腰痛の指圧法
	30	全体復習
教科書	あん摩マッサージ指圧実技〈基礎編〉第1版31刷	
参考文献 其他資料	指圧の理論と実技 厚生省医務局医事課編 (プリント)	
成績評価方法	実技試験	
履修条件	特になし	
備考	指圧法の基本手技読んでおくこと。 指圧全体を学習し、疾患別の簡単な指圧法を学習する。	

授 業 科 目 名	鍼灸基礎実技	科目の位置付け	Ⅲ-8-1-1,4
単 位 数	2単位	時 間 数	60時間
履 修 年 次	1学年(通年)	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	講義		
担 当 教 員	川嶋睦子		
授業の概要・目的	鍼灸基礎実技の授業では、施術に必要な基本知識と技術を学び、安全で効果的な鍼灸治療ができるようになることを目的とする。授業は、鍼の挿管法や灸の艾炷のひねり方、消毒法などの基本技術から始まり、透熱灸や管鍼法の応用技術に至るまで幅広くカバーする。評価は実技試験、筆記試験、中間実技試験を含む総合的な成績で行われる。		
授業のキーワード	基礎・安心・安全・施術		
授業の到達目標	安全な鍼灸の基本実技が出来るようになる。灸：1分間に8壮出来るようになる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	オリエンテーション	
	2	講義：鍼の基本知識。 実技：挿管法	
	3	講義：灸の基本知識。 実技：艾炷のひねり方(米粒大)	
	4	講義：消毒法。 実技：管鍼法(押手と弾入)	
	5	管鍼法の四診の手順①	
	6	透熱灸の手順①(米粒大)	
	7	管鍼法の四診の手順②	
	8	透熱灸の手順②(半米粒大)	
	9	中間実技試験	
	10	講義：リスク管理。 実技：管鍼法(下腿部への刺鍼)	
	11	知熱灸(米粒大・半米粒大)	
	12	実技試験練習(鍼：直刺。 灸：6壮/1分)	
	13	実技試験練習(鍼：直刺・灸：8壮/1分)	
	14	前期実技試験(はり)	
	15	前期実技試験(きゅう)	
	16	前期実技 復習確認	
	17	講義：鍼灸医療安全ガイドライン。 実技：直刺(深刺)	
	18	斜刺、横刺	
	19	斜刺、横刺、撚鍼法	
	20	刺鍼中の手技(雀啄、間歇、振戦)	
21	刺鍼中の手技(施擦、回旋、副刺激)		

	22	刺鍼中の手技(示指打、随鍼、内調、細指)
	23	刺鍼中の手技(管散、鍼尖転、刺鍼転)
	24	中間実技試験
	25	鍼灸臨床実技(①基本実技・経穴取穴)
	26	鍼灸臨床実技(②基本実技・経穴取穴)
	27	鍼灸臨床実技(③基本実技・経穴取穴)
	28	後期実技試験(はり)
	29	後期実技試験(きゅう)
	30	まとめ(講義・実技)
教科書	はりきゅう実技〈基礎編〉 第2版9刷	
参考文献 其他資料	特になし	
成績評価方法	実技試験(80%)、筆記試験(10%)、中間実技試験(10%)	
履修条件	特になし	
備考	(1)毎日コツコツ練習してください。 (2)身なり、挨拶、言葉遣い、清潔な白衣に気をつける。授業後は掃除をすること。	

授 業 科 目 名	臨床実習 I	科目の位置付け	Ⅲ-9-1-1,2,4,5,6
単 位 数	1単位	時 間 数	45時間
履 修 年 次	1年次(後期)	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	実習		
担 当 教 員	宮本俊和、岩昌宏、國分壮一、武藤永治、渡部正司、糟谷俊彦、川嶋睦子		
授業の概要・目的	臨床実習では、鍼灸手技療法の基礎知識と実技を学ぶ。カリキュラムは、必要な理論知識の習得、治療の見学、治療環境の整備に重点を置く。実践的な学習と臨床現場における業務上の洞察に重点を置き、治療院業務の理解と患者との基本的な交流の練習も含む。		
授業のキーワード	臨床能力、理論的知識、臨床観察		
授業の到達目標	観察力と基本的なコミュニケーションスキルを養う。治療の見学、治療所の運営を理解し、患者との基本的なやり取りを実践で練習する。この実習を通じて、学生たちは実際の治療環境での経験を積み、将来の専門職として必要な能力を養う。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業の概要	
	2	臨床施術の一連の流れ	
	3	施術所の災害対策と災害時の対応	
	4	臨床実習における感染対策	
	5	医療者としての守秘義務と個人情報	
	6	医療人として必要な倫理観(自律性の尊重・無危害・善幸・公正)と品位(清潔感・言葉遣い・礼儀・立ち振る舞い・教養)	
	7	患者や他職種の人とのコミュニケーション	
	8	インフォームドコンセント	
	9	施術所の環境設備、治療所の運営	
	10	施術所の治療機器の取り扱い	
	11	鍼灸手技療法の見学実習(1) 見学実習：臨床現場で実施されているはり師、きゅう師、あん摩・マッサージ・指圧師の仕事を理解し、医療人として適切な態度で実習に臨み、患者や医療スタッフとのコミュニケーションを図る。	
	12	鍼灸手技療法の見学実習(2)	
	13	鍼灸手技療法の見学実習(3)	
	14	鍼灸手技療法の見学実習(4)	
	15	鍼灸手技療法の見学実習(5)	
	16	鍼灸手技療法の見学実習(6)	
	17	鍼灸手技療法の見学実習(7)	
18	鍼灸手技療法の見学実習(8)		

	19	鍼灸手技療法の見学実習(9)
	20	鍼灸手技療法の見学実習(10)
	21	鍼灸手技療法の見学実習(11)
	22	鍼灸手技療法の見学実習(12)
	23	授業のまとめ
教科書	適時授業用資料を配付	
参考文献 その他資料	特になし	
成績評価方法	実習生が提出する実習日報および授業ごとの教員評価(基本事項や行動目標など5項目から成る実習項目を5段階評価する臨床実習評価表による評価)より総合的に評価する。	
履修条件	特になし	
備考	積極的に実習に参加してもらいたい。	

基幹教員・オフィスアワー

教員氏名	研究室	連絡先	前期・後期
宮本俊和	408	toshikazu-miyamoto	在室時はいつでも対応
岩昌宏	407	masahiro-iwa	
國分壯一	401	soichi-kokubun	
武藤永治	404	eiji-muto	
渡部正司	405	masashi-watanabe	
糟谷俊彦	202	toshihiko-kasuya	
川嶋睦子	202	mutsuko-kawashima	

* 急な業務・学科等で不在のこともありますので、事前にメール等にて連絡してください。

* メール送信の場、連絡先の後に、@sendai-akamon.ac.jp をつけてください。

* オフィスアワーの活用方法に関しては、学生便覧 P.36 を確認してください。

非常勤講師一覧

分野	科目	講師名	所属先・役職
基礎分野	心理学	黄淵熙	東北福祉大学 教育学部 教育学科 教授
基礎分野	論理学	安藤恵子	東北大学大学院 歯学研究科 准教授
基礎分野	社会学	大森駿之介	東北大学 文学部 社会学研究室
基礎分野	中国語	浦山きか	東北大学・学術資源研究公開センター・史料館 協力研究員
基礎分野	英語	菅原祐子	
基礎分野	コミュニケーション理論と実践	森脇順子	仙台赤門医療専門学校 事務主任
専門基礎分野	生理学 I	高橋はるか	仙台赤門医療専門学校 専任教員
専門基礎分野	生理学 II	笹野泰之	東北大学大学院 歯学研究科 名誉教授
専門基礎分野	衛生学・公衆衛生学	長岡靖彦	仙台赤門医療専門学校 専任教員
専門基礎分野	リハビリテーション医学	笠原岳人	仙台大学 教授
専門基礎分野	医療概論	神成有己	神成接骨院
専門基礎分野	整復概論	石垣寛高	仙台赤門医療専門学校 教務主任兼学科副主任

学籍番号

氏名

シラバス 2026 1年生

2026年4月1日 発行

学校法人赤門宏志学院
編集・発行 仙台赤門短期大学 鍼灸手技療法学科
所在地 〒980-0845
仙台市青葉区荒巻字青葉33-1
TEL 022-222-8349(代表)



学校法人 赤門宏志学院

仙台赤門短期大学 鍼灸手技療法学科